

企業事例集

- 1 食料品製造業 P. 1
- 2 食料品卸売業 P. 22
- 3 食料品小売業 P. 29
- 4 外食産業 P. 38

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

危険の見える化

企業情報

所在地：東京都
従業員：42,453名
(※アルバイト含む)

背景

- 類似災害が発生している事をきっかけにして、2018年から店舗内にハザードマップを掲示し、労働安全の取組に、より力を入れました。

取組内容

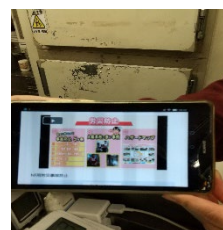
1. 【類似災害を防止するためのハザードマップの掲示】

- 火傷、転倒、切創の類似災害を防止するために、店舗内のどこに危険が潜んでいるのか、またどこに注意すればよいのかが分かるように一枚のハザードマップにまとめて、掲示をしています。
- ハザードマップを見やすくするために、各項目を色分けして掲示しています。
- 実際の危険箇所にはシールを貼って、併せて注意喚起も実施しています。
- 外国の方が見ても分かりやすいように、シールにはイラストを用いています。



2. 【労働安全教育を目的としたタブレット端末による教育】

- 入社3ヶ月以内の方が事故に遭う可能性が高いことから、特に初期教育には力を入れています。入社初日に6分間の映像による教育を義務化しています。
- 外国の方のために、数か国語のバージョンを作成しています。



3. 【その他の活動】

- 労働時間の管理、長時間労働の廃止
- 安全衛生チェックリストの運用
- 事故の事例と対策の共有

安全の成果

- ハザードマップ・注意喚起のシールを掲示することで、管理者が新人の教育を実施しやすい環境を作れました。
- タブレット端末による教育は労働災害の減少にも効果的ですし、従業員の安全意識の向上にも繋がっています。

副次的成果

- 誰もが働きやすい職場にするための取組を公表・実施することで、採用活動がスムーズになり、人財の確保に繋がっています。

取材年月：2020年10月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です

取組みのカテゴリ

火傷防止対策

危険の見える化

切れ・こすれ防止対策

企業情報

所在地：東京都

従業員：1,638名

背景

- 会社の仕組・ルール作りを行う「店長プロジェクト」は1994年より毎月活動が続けてまいりました。2017年には新たに「業務改善・労務改善プロジェクト」が発足。このプロジェクトにて労災の削減目標を設定したことをきっかけに、店長達が中心となり本格的に労災の防止活動に取り組んでいます。

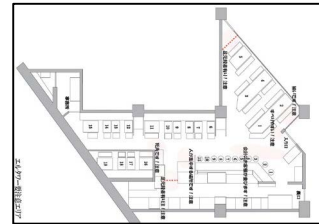
取組内容

1. 【火傷を防止するためのスプーサーバー導入】

- スープの移動作業を廃止し火傷を防止するため、全店舗でスプーサーバーの導入を約1年かけて実施しました。

2. 【危険箇所を見える化するためのハザードマップ作成】

- まずは店長・従業員にアンケートを実施して危険箇所の把握をしました。店舗毎にレイアウト・危険箇所にバラツキがあるため、あくまでも店長主体で作成しました。



3. 【切創を防止するための危険作業の廃止】

- 大和イモの皮むき・芋すり作業・白髪ねぎのカットをセントラルキッチンで実施することで、店舗内で包丁を使う作業や危険を伴う調理機器を極力削減しました。



安全の成果

- スープに起因する火傷事故と、包丁・調理機器に起因する切創事故は激減しました。
年間労災発生件数
- 18件⇒12件へ減少

副次的成果

- 経営の目的である「働く仲間の幸せ」を追求し、誰もが働きやすい職場にするための取組を公表・実施することで人財の定着にも繋がっています。
- 労災防止活動に限らず、会社・店舗の仕組みやルールを店長自らが考えて実践することに拘ってきました。その結果、トップダウンで落とし込みをするよりもはるかに労働安全の取組が浸透しましたし、店長始め社員達が成長してくれています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒対策

火傷防止対策

労働安全教育の工夫

企業情報

所在地：東京都
従業員：

背景

役員・幹部も全員が店舗勤務を経験しているため、労働安全に対する意識は当然高い企業だと思っています。また労働組合との関係性を大事にし、連携しながら労働安全活動に取り組んでいます。またコロナ禍でアルバイトの採用に変化が現れ、人の入れ替わりが発生したことを踏まえて、労働安全の取組を強化しています。

取組内容

1. 【転倒防止のためのキッチンシューズの交換の適正化】
- キッチンシューズの減り具合が進んでしまうと転倒事故につながります。当社では適切に新しいものと交換できるように、交換時期の目安写真を店舗に掲示して、交換を促進しています。



2. 【火傷防止のためのIHヒーターカバーの導入】
- IHヒーターの上に誤って鉄製のモノを仮置きしてしまい、それが温まって火傷に繋がる事故が複数発生していた為、カバーを導入し、対策を実施しました。



3. 【労働安全教育のためのタブレット端末導入】
- 正しい作業手順の把握、危険箇所の把握、5S活動などの教育を実施することで労働災害防止に努めています。2016年よりタブレット端末を導入し、入社時とその後の経験に合わせて受講項目を決めて全店舗で教育を継続的にを行っています。



安全の成果

- キッチンシューズの交換時期の明確化により、転倒災害は減少傾向にあります。また、IHヒーターカバーの導入で、IHヒーター起因による火傷事故はゼロになりました。

副次的効果

- タブレット端末による教育（労働安全以外のものも含めて）を実施して、効率的に教育ができるようになりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

従業員の健康保持・増進

労働環境の改善

安全衛生方針の策定

企業情報

所在地：東京都

従業員：39,985名

背景

店舗数の増加をきっかけに、2017年に安全衛生方針を定めて労働災害防止に向けて取組をさらに強化しました。

取組内容

1. 【労働災害を防止するための健康保持・増進】

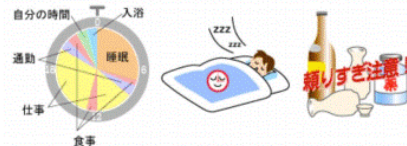
- 心身共に健康であることが労働災害を防止するには必要不可欠であると考えています。CEOから健康保持・増進に関するメッセージも定期的に配信しています。産業医や専門家から配信してもらうこともあり、コロナ禍の精神的な乗り切り方のポイント等も掲載しています。従業員から大変評判の良いものとなっています。

「健康な心」を保つ -身体面-

● **時間のコントロール** 忙しい一日の中で、少しの間だけでも趣味に時間を費やしたり音楽を楽しんだりするなど、自分自身がリラックスできる「**自分のための時間**」を持つようにしましょう。なかなか思い通りにはいきませんが、目標のタイムスケジュールを立てることから始めてみませんか。

● **良質な睡眠をとる** 睡眠の乱れは生体のリズムを崩し、ストレスに弱い体を自ら作ることに繋がります。良質な睡眠は、時間もさることながら眠りの深さが大事です。就寝前に血の巡りを良くする軽いストレッチやアロマオイルでマッサージする、音楽を聴くなど、寝室・寝具の環境をリラックスできるように整えたりすること、また昼間に適度に運動する(体を動かす)などの工夫も必要です。

● **アルコールに頼らない** 適量を超える飲酒は、止めたくてもやめられない「**依存症**」への引き金となりますので絶対にやめましょう。睡眠薬は医師と相談しながら生活改善とともに上手に使いましょう。



「健康な心」を保つ -心理面-



● **完璧主義を捨てよう!** 何事もきちんとやることは大切ですが、人間ですから、全てを完璧にできるわけではないのです。少し肩の力を抜いて取り組み、心にゆとりを持つことが大切です。

● **思考を柔軟にしよう!** 自分が掲げた目標と現実のギャップはストレスを生みやすいものです。アプローチの仕方を変えることにより目標を少し下げ、達成率を上げ達成感を味わうことが次のSTEPに繋がることもあります。考え方を柔軟にし、別の手段を考えることも必要です。

● **過去にこだわらず前向きに考えよう!** 物事を悲観的に考えることはストレスをマイナスに変える要因です。過去に戻ることはできないので、未来をプラスの方向で考える習慣を身につけましょう。

● **一人で抱え込むのはやめよう!** 悩んだ時には、一人で抱え込まず人に相談することも大切です。物事の受けとめ方は人により異なるので、考えもつかなかった解決法を生むこともあります。仕事でも何でも一人で抱え込むことで、許容量を超えてしまうとストレスに繋がります。人に任せることは任せて、成果を分かち合うことも大切なことです。

2. 【従業員にリラックスしてもらうための労働環境の改善】

- 休憩時には心身ともにリラックスしてもらうためにバックルームマネジメントという取組を実施しています。5S活動や、材料置き場の変更により、休憩スペースを拡大して、より良いコンディションで働いてもらうように工夫しています。

3. 【安全意識向上のための安全衛生基本方針の策定】

2017年より、以下3点の項目を基本方針に定めて従業員の安全意識の向上に努めています。

- 心とからだの健康維持増進を支援する
- 安全衛生の目的を理解する
- 安心安全な店舗環境をつくる

安全の成果

- 従業員のこころとからだの健康を保持・増進する活動と作業負担の軽減を図り、労働災害は減少傾向にあります。

副次的効果

- 従業員の健康維持と、労働安全取組、作業負担の低減に取り組むことで、接客する時間を増やし、顧客満足度の向上に繋げることができました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

火傷防止対策

危険の見える化

労働安全教育の工夫

企業情報

所在地：東京都

従業員：16,488名

背景

労働災害防止の活動は実施していたものの、労働災害の件数は横ばい状態が続いていました。そこで2015年に安全方針を策定して活動を強化しました。まずは、災害の型として多かった切創とヤケドの防止に取り組み、その後、労災件数の多い店舗を集中的に改善するよう努めました。

取組内容

1. 【火傷防止のためのパスタスチーマー導入】

- 店舗で行う危険作業を廃止し、別の方法に置き換えて安全を確保するように努めました。パスタをゆでる際の湯気やしびきによるリスクを無くすために全店でパスタスチーマーを導入しました。



2. 【類似災害を防止するための注意喚起ポスターの掲示】

- 事故の型として多かった転倒・切創・火傷・腰痛を防止することを目的として、危険箇所や作業手順の見える化を実施しています。注意喚起のポスターは、繁忙期前のタイミングで、イラストや内容を変更し、新鮮な状態にするなどメンテナンスを実施することにより、ポスターの風化を防止しました。



3. 【労働安全教育のためのEラーニング導入】

- 2015年からタブレット端末でのEラーニングを導入し、紙の作業マニュアルは廃止しました。初期研修や調理の手順などすべてタブレット端末で効率よく学習できるため、教育にかかる時間が短縮されると同時に質の高い教育が可能となりました。

安全の成果

- 類似災害の発生は近年減少傾向にあります。

副次的効果

- パスタスチーマー導入前はオーバーボイルが発生してしまうことがあったが、導入後は無くなりました。またパスタの硬さにムラがなくなり、品質の向上に繋がっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒対策

火傷防止対策

切れ・こすれ防止対策

企業情報

所在地：東京都

従業員：27,000名

背景

もともと安全が第一という考え方で労働安全活動に取り組んでいましたが、安全衛生委員会に新たにグループ企業からも参加者が加わったことで、良い事例の共有が進み、さらに労働安全活動を強化することができました。

取組内容

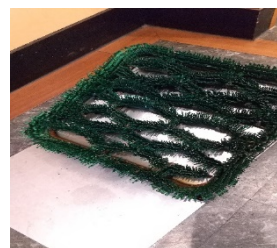
1. 【転倒を防止するための5S、衛生タイム】

- 厨房を5つのチームに分けて1時間に1回、1つのチームが衛生タイムを実施します
- 職場内放送で指定されたチームは作業を止めて、作業台・床を清掃・消毒します



2. 【転倒防止のための靴底ブラシの導入】

- 転倒の防止を目的として、キッチンシューズの管理に拘っています。特に靴底を徹底的にきれいにしないと、転倒の原因が職場に広がってしまいます。キッチンシューズの底に米などの食材が入り込んでしまうと転倒の原因になるため、靴底ブラシを導入しました。



3. 【火傷防止のためのアームカバーの導入】

- 油跳ねによる火傷防止のためにアームカバーを導入しています。揚げ場の従業員は必ず着用しています。



4. 【包丁による切創を防止するためのフィンガーガードの導入】

- 包丁を持たない手には必ずフィンガーガードの着用を義務付けています。



安全の成果

- 類似災害の発生は近年減少傾向にあります。特に転倒災害は減少しました。

副次的効果

- 地域に根付く店舗の評判は、近隣に住む従業員から伝わる情報が最重要だと考えています。衛生タイム等の徹底した取り組みを実施することにより、はま寿司は労働安全衛生に厳しく取り組んでいる情報が評判となり、企業のイメージアップにも繋がっていると考えています。

取材年月：2020年11月

* 上記取り組みは、当該企業の労働安全の取り組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロール

KYT

企業情報

所在地：東京都
従業員：27,238名

背景

当社は企業や病院・高齢者施設、学校、スポーツ施設などで飲食を提供する業務であるため、施設ごとに労働環境や危険な場所が大きく異なります。また、人財の高齢化もあり、各施設に応じた労働安全対策が求められています。当社では、これまで労働災害発生後の再発防止に注力してきましたが、思ったような効果が認められなかったため、新たに労働災害発生を予防するための取組を実施しました。

取組内容

1. 【危険を発見し災害を予防するための安全パトロール】

- 安全衛生スーパーバイザーによる安全パトロールを定期的を実施し、各事業所の食品・労働安全の状況確認と指導を行っています。安全パトロールによって発見されたリスクと実施された予防策は、WEBシステムによって全事業所が閲覧できます。他の事業所の事例を共有することで災害予防の意識向上に繋がっています。



2. 【職場に潜む危険を把握するためのKYT】

- 職場で「やってはいけないこと」を自ら考えて身に付けることが重要です。職場に潜む危険な箇所や状況を把握するために、ハザードマップを作成し、危険予知トレーニング(KYT)を実施しています。入社時から繰り返し行い、継続することで、従業員は災害防止には安全な作業方法(手順)が重要であることを学びます。



安全の成果

- 危険な箇所をノンスリップテープなどで表示することで【見える化】を行い、視覚的に危険箇所を知らせることで、従業員はその場所で安全行動をとるようになり、意識の変化が生まれています。
- 危険予知トレーニングを行うようになってからは、従業員の安全意識が高まるだけでなく、各事業所が主体的に危険箇所を共有し、危険作業の見直しに取り組むようになるという好循環が生まれています。

副次的効果

- 安全パトロールや5Sの活動が定着することで、モノを探すなどの手間の削減や正しい手順で作業を行えるようになり、結果として異物混入の件数は減少し、食の安全にも繋がっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロールの実施

労働安全に関するコミュニケーション

企業情報

所在地：東京都
従業員：3,752人

背景

経営体制の変更後、労働安全の取組を強化しました。安全・衛生・改善推進室の人員を増員し、安全パトロールにマンパワーをかけました。軽微な事故もすべて会社に吸い上げて、改善策を実施し、各事業所に展開しています。また事故を未然に防ぐ予防的管理にも力を入れてきました。

取組内容

1. 【表彰される職場にするための安全パトロール】

- 事業所が多数あり、それぞれの労働環境が異なるため、安全・衛生・改善推進室主導による安全パトロールには重点を置いています。評価を点数化し、順位をつけて上位の事業所に表彰を行っています。また、合格点以下の事業所にはイエローカードを出して改善させるメリハリをつけ、安全衛生が浸透するように工夫しています。



2. 【安全意識を継続させるための注意喚起】

- 各事業所で労働安全に対する注意喚起を輪番制にて実施しています。2S（整理整頓）当番、保護具当番、注意喚起当番の3当番を設定し、それぞれ交代制で実施しています。時間帯により、業務内容が変わり、労働安全に対するリスクも変化します。当番は各事業所のスタイルに合わせて注意喚起にメリハリをつけて運用しています。



安全の成果

- 安全パトロール、輪番制の注意喚起により、従業員の安全に対する意識は向上しました。現在、転倒等による休業を伴う労災事故は減少傾向にあります。

副次的成果

- 輪番制の実施により、職場内でコミュニケーションを取る機会が増えて、チームワークが向上しました。その影響で、副産物として労災事故の減少以外にも、誤配膳のミス等が減少するようになりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

交通事故

労働安全に関するコミュニケーション

企業情報

所在地：東京都

従業員：9,650名

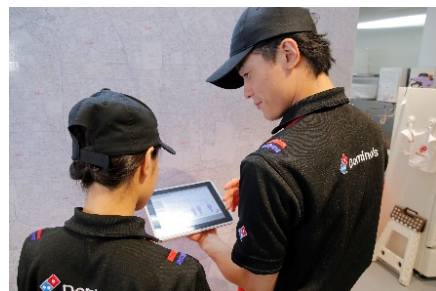
背景

創業当初から労働安全の確保については最優先事項として取り組んできました。全日本デリバリー業安全運転協議会の立ち上げにも尽力いたしました。安全もサービスの一部として捉えることで、これからも交通事故の撲滅に向けて取り組んでいきます。

取組内容

1. 【事故を起こさないための初期教育】

- 入社後は、e-ラーニングを受講してもらい、安全運転に関する知識、意識、技術を徹底的に学びます。その後、OJTを実施して、店長が許可をして初めて1人で配達を実行できるようになります。e-ラーニングでは良い事例と悪い事例を学ぶことで効果を高める工夫をしています。安全と美味しいピザを届けることが我々の役割・使命だと考えています。



2. 【安全意識向上のための宣言】

- 当社では6つのやさしさを持ってサービスを提供することを宣言しています。また社員・スタッフ全員がどうやって安全運転するのかを自ら考えて宣言しています。
- ①人にやさしい ②地域にやさしい ③環境にやさしい
④車両にやさしい ⑤ピザにやさしい ⑥あなたにやさしい



3. 【リスク低減のためのe-バイク導入】

- 現在、全車両の三分の一は電動式自転車（e-バイク）となっています。通常のバイクに比べて事故のリスクは格段に下がります。



4. 【整備不良を無くすための車両チェック】

- 整備の方法についてもe-ラーニングで正しく学びます。そして、その日に最初に運転する車両は必ず車両チェックを実施します。



安全の成果

- 近年の労災事故は減少傾向にあります。

副次的成果

- e-バイクの導入により、自動二輪の免許を持たない方の採用が増加し、人材の確保に繋がりました。
- 安全にサービスを提供し続けることが、企業イメージの向上に繋がると考えています。

取材年月：2020年12月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。